

# 令和5年度 徳島県 英語教育改善プラン

## 目標

目標と指導と評価の一体化を徹底し、児童の言語活動時間の割合を向上（50%以下の割合を0%に、75%以上の割合を国平均の51%以上に）させる。また、一人一台端末を言語活動に活用していないという回答を0にする。

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

- ①児童の言語活動時間の割合  
50%以上 94.5%→**97.8%**
- ②CAN-DOリストの設定等  
設定 100%→**100%**  
公表 80.6%→**95.5%**  
把握 95.2%→**99.4%**
- ③英語教育に関する小中連携の実施状況  
100%→**100%**

### 未だ改善が必要な点

- ①言語活動の割合は改善されているが、**25%～50%未満 2.2%**  
**75%以上は39.4%**と低い。
- ②パフォーマンステストの適切な実施
- ③言語活動に関する一人一台端末等の活用  
発表・やり取りに活用なし **16.6%**  
録音・録画に活用なし **47.2%**
- ④一定の英語力を有する者  
新規採用者に占める割合  
17.9%→**19.3%**  
英語免許状所有（全体）  
9.0%→**8.8%**  
CEFR B2以上（全体）  
1.2%→**2.5%**

## 2. 分析

- ①学校訪問や各種研修等の機会を捉え、**言語活動を通じた指導について繰り返し周知**。
- ②③R元より「**小中連携版CAN-DOリスト**」作成に向け、地教委への説明及び各学校宛てに「作成の手引き」等を作成し送付。設定・公表・把握についても指導。

- ①学校訪問等で授業を見ると、言語活動は行われているが、**言語活動を通じた指導については浸透していない**。
- ②各校における**パフォーマンステストについての理解に格差**があることが分かった。
- ③**ICTの有効な活用方法が浸透していない**。また、通信状況やヘッドセット等、**ハード面で課題**がある。
- ④新規採用者に占める一定の英語力を有する者の**割合は増加**しているが、**目標値には未達**。

## 3. 施策・事業

### 徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底

- ①小学校の外国語教育の特性を踏まえた質の高い授業の実施のため、学校からの要請に対し学校訪問を行う。
- ②③「**校種間連携版CAN-DOリスト**」の見直し時、**授業（教科書単元）や定期テストとの紐付けを徹底**し、「目標と指導と評価の一体化」を促進する。
- ①②③・小学校英語専科教員に対し研修を実施。
  - ・学校訪問や各種研修等において**小学校の外国語教育の特性を踏まえた質の高い授業の実施について周知**し、言語活動の割合の改善を図る。
  - ・「校種間連携型CAN-DOリスト」を軸とした**ウェブサイト「指導と評価の一体化サイト」**の作成委員会を継続し**パフォーマンステスト等、評価問題の例を作成**する。
  - ・**ICTを活用したパフォーマンステストの開発と公表**  
成果物を公表し、研究会等で研修を行うことにより「言語活動をととした指導」の理解を進め、学校現場における**パフォーマンステストの改善及び授業改善そのものを促進**
- ④・中学校教諭「英語」に出願する者で、小学校教諭の免許状を有する者は小学校教諭を併願可。小学校教諭に出願する者で、文部科学省が示す「一定の英語力」を有する者には、加点（15点）及び、第2次審査の実技試験を免除する。
  - ・英語免許状取得の割合を高めるため、**中学校英語2種免許状の取得を周知**する。（現在5名が受講中）
  - ・**「先導的オンライン実証事業」の受講を薦め**、中学校教諭「英語」2種免許状や資格の取得につなげる。

# 令和 5 年度 徳島県 英語教育改善プラン

## 目標

目標と指導と評価の一体化を徹底し、生徒の言語活動及び教員の英語使用の改善とパフォーマンステスト（S W）の両方実施を100%とする。

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

- ①国が求める英語力を有する生徒の割合(CEFR A1)  
47.8% → **52.1%**
- ②CAN-DOリストの設定等  
設定 100% → **100%**  
公表 96.2% → **100%**  
把握 100% → **100%**
- ③英語教育に関する小中連携の実施状況  
100% → **100%**

#### 未だ改善が必要な点

- ①言語活動を通じた指導の充実
- ②パフォーマンステスト（スピーキング及びライティング）の実施状況  
両方 92.0% → **86.5%**  
Sのみ 2.9% → **10.1%**  
Wのみ 3.3% → **2.5%**  
無し 0.0% → **0.0%**
- ③ICT機器の活用状況  
やり取り・発表 **16%未実施**  
キーボード入力 **11%未実施**

### 2. 分析

- ① **4 技能型客観テストを活用した授業改善事業及び英語指導力向上事業**を実施。  
20校(R3), 40校(R4)に訪問指導。  
推進校 1 校、徳島イングリッシュメンター 3 名の成果をオンラインで全校に伝達。
- ②③R元より「**小中連携版 CAN-DOリスト**」作成に向け、地教委への説明及び各学校宛てに「作成の手引き」等を作成し送付。設定・公表・把握についても指導。

- ①生徒の言語活動割合(50%以上：**81.2%→87.3%**)及び教師の英語使用量(50%以上：**84.3%→89.0%**)ともに改善したが、**授業作りについての理解が不十分。**
- ②CAN-DOリストでの把握は100%であるが、**パフォーマンステスト両方実施は86.5%**であり、「**指導と評価の一体化**」が不十分。
- ③ICT機器の活用による**言語活動を充実させるアイデアの不足。**

### 3. 施策・事業

#### 徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底

- ①事前事後及び中間研修を含む **4 技能型客観テストを活用した授業改善事業（「世界スタンダード英語 4 技能育成事業」R元～）**を継続。**中間研修**を通して、一校一校にきめ細かな支援を実施。また、英語指導力向上事業の成果を**各種研修会で周知徹底**。
- ②③「**校種間連携版CAN-DOリスト**」の見直し時、**授業（教科書単元）や定期テストとの紐付けを徹底**し、「**目標と指導と評価の一体化**」を促進する。また、**校種間連携型研修会を継続**し、学校現場へきめ細かな支援を実施する。
- ①②③「**校種間連携型CAN-DOリスト**」を軸とした「**指導と評価の一体化サイト**」に掲載するパフォーマンステスト作成委員会を継続するとともに、特に**ICTを活用したパフォーマンステストの開発**を進め、学習評価問題例の充実を図る。さらに、**成果物を公表することによって「言語活動をととした指導」の理解**が進み、学校現場における**パフォーマンステストの改善及び授業改善そのものを促進**させる。

# 令和 5 年度 徳島県 英語教育改善プラン

## 目標

目標と指導と評価の一体化を促進し、言語活動をとおした指導を充実させることで、生徒の英語による言語活動の割合(授業中50%以上言語活動を行っている割合)を75%とする。

## 1. 現状

### 改善が進んだ点

①授業における生徒の英語による言語活動時間の状況

50.6%→62.9%

②授業における英語担当教員の英語使用状況

48.3%→60.5%

③パフォーマンステスト（スピーキング及びライティング）の実施状況

両方実施：36%→59.5%

①国が求める英語力を有する生徒の割合（CEFR A2）

50.0%

②生徒の言語活動及び教員の英語使用

→さらなる改善必要

③B1レベル相当以上を取得した生徒の割合

20.6%

④パフォーマンステスト（スピーキング及びライティング）実施状況

両方実施：59.5%

⑤ICT機器の活用状況

生徒が遠隔地の生徒と交流  
57%の学校が実施せず

### 未だ改善が必要な点

## 2. 分析

①②③教員研修・研究会を実施→授業における生徒の言語活動及び教員の英語使用状況、パフォーマンステストの実施状況の全てにおいて改善

①学校・学科間に格差

普通科 65.1%

専門学科 22.5%

②学年が上がるにつれて生徒の言語活動、教員の英語使用の割合が減少

生徒：68%（高1）

→54%（高2・3）

教員：64%（高1）

→55%（高2・3）

③指導力・評価力の向上必要

・外部試験等の受検による取得

48%（A2では57%）

・見なしによる取得割合

18%（A2では21%）

④学年が上がるにつれてパフォーマンステスト実施率が低下。特にスピーキングの実施率が減少。

高1 両方実施率：72%

高2・高3 両方実施率：49%

⑤ICT活用のアイデアが不足

## 3. 施策・事業

**徳島県英語教育推進計画COMPASSの徹底**

①②③英語指導力向上を目指した研修・研究会を継続実施→目標と指導と評価の一体化と、言語活動あふれる授業づくりを推進するための研修・研究会を引き続き実施する。

①②③④⑤

○次の3テーマで**学校悉皆の研究会**を実施

(1)ICTを効果的に取り入れた英語教育の実践

(2)充実した**言語活動**をともなう授業実践

(3)**学習評価問題**の作成と評価の仕方

※(2)(3)は、【標準】と【発展】の2レベルで展開

生徒の実態に合わせ参加者が選択

・外部専門機関の講師と連携、ワークショップ形式を採用

・令和4年度に作成した「英語ディベート動画」を活用

・**発信力（特に「話すこと」）**育成のための授業改善に焦点

○学習評価問題例作成

・「校種間連携型CAN-DOリスト」を軸とした**ウェブサイト**

「**指導と評価の一体化サイト**」の作成委員会を継続

・**ICTを活用したパフォーマンステストの開発と公表**

成果物を公表し、研究会等で研修を行うことによって

「言語活動をとおした指導」の理解を進め、

学校現場における**パフォーマンステストの改善及び**

**授業改善そのものを促進**

③研究指定校を設定

**B1を目指した指導力向上と見なしのためのスキルアップ**

4技能のアセスメントテスト受検で効果を測定